海外景気金融・エマージング

急回復を示すアジア各国の輸出

急回復を示すアジア各国の輸出

アジア危機以降低迷を続けていたアジア各国のドル建て輸出が、昨年後半から今年前半に底打ちし足元で急回復を示している（図)。

輸出急回復の要因としては、第1にアジア各国輸出に占める域内取引のウエイトが高まっていたなかで危機が発生したが、98年後半から今年初めにかけ各国景気が相次いで底打ちしスパイラル的に輸出回復が進んだこと、第2に各国対ドル為替レートが98年1月を底として概ね穏やかな回復基調にあること、第3に原油価格等の一次産品価格や半導体市況が足元で回復基調にあること、さらに危機によって一時細っていた貿易信用供与が、混乱の落着き、新宮沢構想による短期金融支援等により回復してきたこと等によるとみられる。

品目に偏りが見られる輸出回復

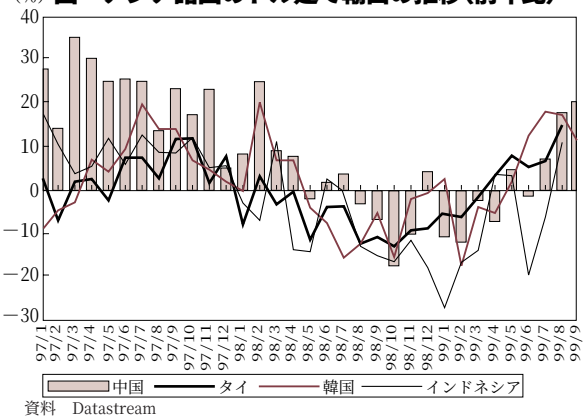
急回復している各国輸出の内訳をみると、増加している輸出品目に偏りがみられる。

韓国では、6月以降輸出が前年比2桁で増加している。品目別では半導体、自動車、コンピューターが2桁の伸び(8月)を示し、これらを含む上位10品目の総輸出額に占める比率は97年には55.1%であったが今年は8月までの累計で59.5%に上昇している。また輸出相手国別ではアジア、日本、欧州向け輸出の好転と最近の円高等で米国向けの増勢が寄与している。

タイでは、域内および日本向けの回復で4月に輸出が増加に転じて以降増加基調で推移し、9月は前年比10.8%増と2ヵ月連続の2桁の伸びを示した。品目別では自動車・輸送機器、電機、電子等の増加が顕著である。また、足元でのバーツ下落による価格競争力の高まりで、当面輸出の堅調推移をタイ当局は予想している。

次にインドネシアでは、増減の変動が激しい

図　アジア諸国のドル建て輸出の推移(前年比)



資料　Datastream

が原油価格上昇もあり回復の兆しが窺える。

中国では、昨年後半以降輸出の低迷が続いていたが、7月以降アジア、日本向けの輸出の回復で急回復している。品目別では輸出増値税の還付率の引上げ等で繊維製品輸出が増加に転じ、機械、電機、輸送機器が好調である。

中国人民元切下げ観測は当面遠のく

輸出の回復で9月末の中国の外貨準備高は1515億ドルに達し過去7四半期で最高の伸びを示した。国内景気は国有企業改革等による失業者の増大等でデフレ傾向が続き第3四半期の成長率は前年同期比7％と減速傾向をしめしているが、9月600億元の国債増発で財政出動による景気対策を実施する予定もあり、人民元の切下げの可能性は当面遠のいたとみられる。

前述各国のドル建て輸出の水準自体は中国、韓国を除き危機前(97年1月)の水準にほぼ回復したレベルで、品目にも偏りがあり輸出の全般的な回復という段階ではない。現状韓国、タイ等では2000年問題関連の半導体等の駆込み需要が輸出急回復に大きく貢献している面があるが、年明け以降の輸出への悪影響等が懸念される。

（千葉 進）